

318

201

軍需商會編纂部著

典範令研究ノ彙 第三集

發行所

軍需商會出版部



典範令研究ノ彙 第三集

目次

野外要務令ノ部

舍營ニ於ケル各官ノ所置

其一 高等司令官

舍營ニ決シタル場合ノ所置

宿營ノ爲メノ命令ニ示スヘキ事項及順序

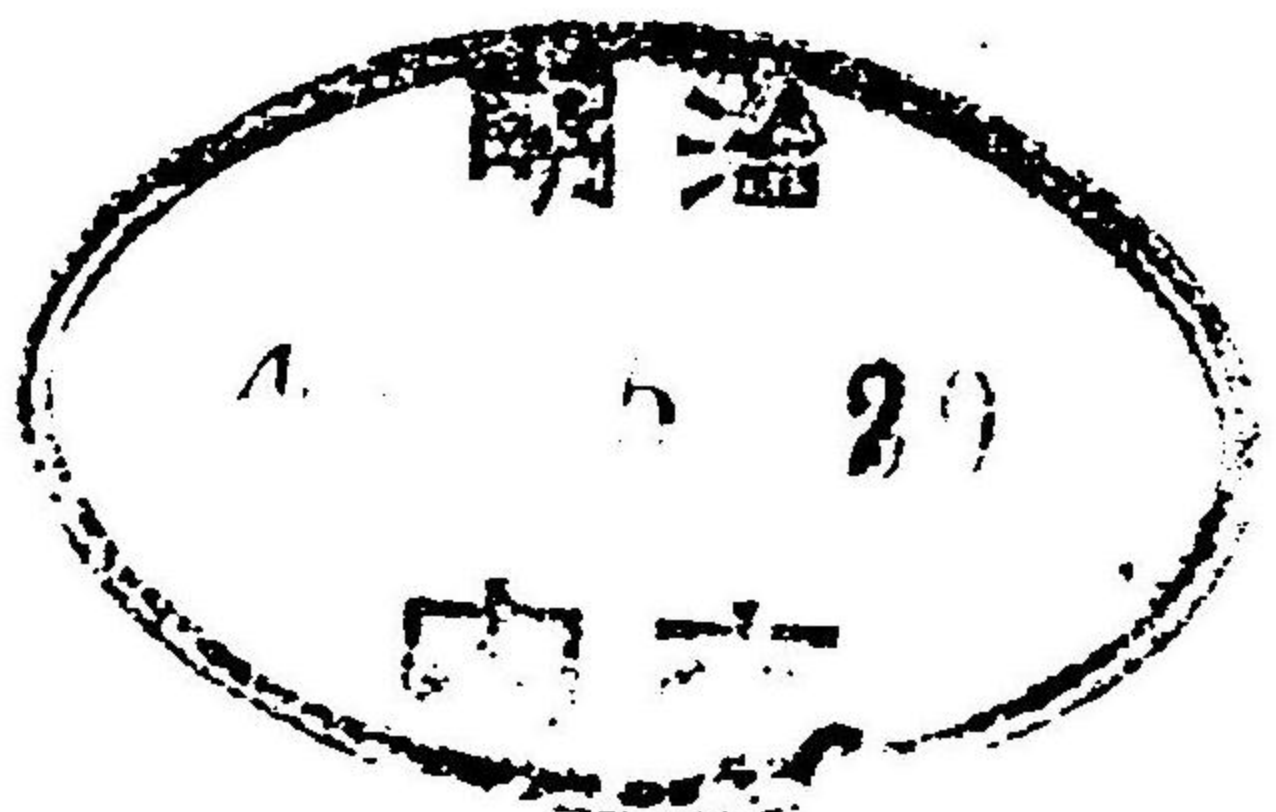
其二 前衛司令官

前衛命令ニ於テ示スヘキ事項及順序

其三 前哨司令官

前哨命令ニ於テ示スヘキ事項及順序

目次





其四 前哨中隊長

前哨本隊ノ爲メニ規定スヘキ件

前哨命令ヲ受ケテヨリ以後ノ前哨中隊長ノ所置

前哨中隊命令ニ於テ示スヘキ事項及順序

前哨中隊ノ爲メ規定スヘキ件

其五 小哨長及獨立下士哨長

命令ヲ受ケテヨリ以後爲スヘキ所置及順序

小哨命令ニテ示スヘキ事項及順序

戰備ノ度ニ關シテ規定スヘキ件

其六 舍營司令官

舍營司令官ノ所置及順序

設營隊ノ編組

其七 舍營日直將校

舍營司令官ノ視察ヲ要スル件

設營隊ニ示スヘキ命令

設營隊ノ動作

日直將校ニ下スヘキ命令ニ於テ示スヘキ事項

巡察將校ニ下スヘキ命令ニ於テ示スヘキ事項

其八 巡察將校

舍營日直將校ノ所置及順序

部隊日直ニ下スヘキ命令ニ於テ示スヘキ事項

外衛兵ノ配置

其九 部隊日直將校下士



部隊日直將校下士ノ所置

其十 各隊長

宿營ニ關スル命令ニ於テ示スヘキ事項

大隊長ノ規定スヘキ件

勤務員ノ割出シ

### 歩兵機關銃操典草案ノ部

穿貫的効力ノ解

機關銃ハ持久的射撃ヲ不可トスル理由

機關銃ノ利用シ得ル遮蔽物ニ就テ

火光ニ由リ目標ノ照明セラレタルトキノ説明

敵砲兵ト威力ヲ競フコト、砲兵ニ代用スルコトノ差異

機關銃ヲ一銃毎ニ分割シテ使用スル場合ノ例

機關銃ヲ使用スル一般ノ方面

六銃ヨリ成ル一隊ノ正面幅ヲ約百米ヨリ超過セシメサル理由

機關銃ニ掩護隊ノ要否

機關銃ノ陣地進入要領

機關銃ヲ使用スヘキ時機探知ニ就テ

銃隊長ノ位置ニ就テ

射撃ノ應用ニ就テ

彈藥小隊ト機關銃陣地トノ距離百米ヲ超過スルノ不可ナル理由

銃長數銃ヲ指揮スル場合

集束彈道ノ濃密部ヲ目標ニ導クコトニ就テ

突貫的ハ穿貫的ノ誤ナルコトニ就テ



攻撃ニ於テ穿貫的効果ヲ必要トスル場合ニ就テ  
近距離ノ解

防禦ニ於テ最初ヨリ一定ノ任務ヲ負擔セシメサル理由

追撃運動ニ於ケル機關銃ノ動作ニ就テ

機關銃射撃ニ於ケル瓦斯壓力ノ調整法

引鐵ノ逆鈎ニ鈎セサル原因

射撃間雷管不發ノ場合ニ於ケル所置

射撃間彈藥筒ノ抽出作用不能トナルコトアル原因

裝填ノ際紙匣ヲ脱セサルヲ可トスル理由

### 野戰砲兵改正草案ノ部

野戰砲兵ノ任務ニ就テ

砲兵ヲ中隊以下ニ分割スルコトニ就テ

砲兵ヲ小隊以下ニ分割スル場合ニ就テ

特殊ノ目的ノ解

砲兵ヲ數群ニ配置スルノ利

曝露陣地、略遮蔽陣地及遮蔽陣地ノ區別

曝露陣地、略遮蔽陣地及遮蔽陣地ノ利害

砲兵ノ動作ノ解

砲兵掩護ニ就テ

間接射撃ヲ用ウル戰況

超過射撃ノ爲メノ算式

砲兵指揮官ト砲兵司令官トノ名稱ノ差異

砲兵司令官ヲ命スルコトニ就テ



## 體操教範ノ部

八

體力及氣力ノ養成ニ就テ

體操教育ニ於ケル一班ノ人員

簡易ナル運動ノ解

號令ノ代リニ笛聲若クハ記號ヲ用ウル場合

號令ノ代リニ用ウル笛聲及記號ノ方法

徒手體操ヲ初メ各個ニ教育スル理由

教官模範ヲ示ストキ兵卒ニ注目セシムルコトニ就テ

深呼吸ヲ以テ行フ運動ニ就テ

呼唱ヲ止メシムル場合

地上ニ下リタル後更ニ一躍ヲ爲ス理由及要領

懸垂ヲ初ムルトキノ位置ニ就テ

梁木ノ速歩通過ニ就テ

野外ニ於ケル應用體操ニ就テ

## 劍術教範ノ部

基本演習ニ防具ヲ附着スルコトニ就テ

異種白兵ニ對スル構備ノ姿勢

異種白兵ニ對スル劍術ニ於テ有利ナル擊突及防拂ノ方法

竹刀(木銃)ヲ放墜セシ場合ニ就テ

防拂ノ爲メノ軍刀ノ部位ニ就テ

返擊ノ爲メノ前進ニ就テ

防拂返擊等ヲ前進或ハ停止ニテ行フ場合ノ豫告

銃劍ノ防拂ニ於ケル適當ナル部位



典範令研究ノ彙 第三集目次終

典範令研究ノ彙 第三集

野外要務令ノ部

質 問

- (一) 高等司令官ノ宿營命令ヲ下シテヨリ各隊投宿スルマテノ順序ヲ説明セラレタシ
- (二) 宿營ノ爲メノ命令ニ示スヘキ事項及順序ヲ問フ
- (三) 舍營司令官ノ動作ヲ詳細ニ説明ヲ乞フ又舍營ニ關シ舍營司令官ノ下ス命令ニハ如何ナルコトヲ記載スルヤ
- (四) 宿營ニ關シ本隊ニ在ル各隊長ノ下ス命令ニハ如何ナルコトヲ示スヘキヤ
- (五) 日直將校ノ任務及動作ニ就テ説明ヲ乞フ

野外要務令ノ部



(六) 舍營地ニ於テ最寄ノ部隊ヨリ外衛兵ヲ出ストキハ尙舍營日直將校一々之ヲ配置スヘキモノナルヤ

(七) 部隊日直將校下士ノ所置ヲ問フ

(八) 設營隊ノ編組ヲ問フ

(九) 宿營ニ關スル前衛命令ニ於テ示スヘキ事項及順序ヲ問フ

(十) 前哨中隊命令ニテ示スヘキ諸件ヲ問フ

(十一) 前哨各部隊長ノ前哨配置ヲ終ル迄ノ動作及其順序如何

(十二) 小哨長ハ小哨ノ戰備ノ度ニ就テハ如何ナルコトヲ規定スヘキモノナルヤ

### 答

前記諸問ハ相關聯スルコト多キヲ以テ一括シテ次ニ舍營ニ於ケル各官ノ所置ヲ示ス故ニ各其關係スル所ヲ參照セラルヘシ

### 舍營ニ於ケル各官ノ所置

舍營ニ於ケル各官ノ處置左ノ如シ

#### 其一 高等司令官

一、高等司令官一地ニ舍營スルニ決スレハ參謀又ハ副官或ハ傳騎ヲ前衛司令官ノ許ニ差遣シ(高等司令官前衛司令官ト同行シアル時ハ直ニ口達ヲ以テ)駐止ノ命令ヲ下スト同時ニ當夜本隊及前衛本隊ノ宿營スヘキ地其他前衛ノ爲スヘキ事ニ就テ必要ナル訓示ヲ前衛司令官ニ傳達ス

二、本隊ヲ舍營スルニ決シタル市村ノ近傍ニ開進ス若シ地形之ヲ許ササル時ハ行軍路上ニ縱隊ノ儘停止ス

三、各隊ノ命令受領者及高等司令官ト同舍營地ノ舍營司令官ニ任命スヘキ將校ヲ高等司令官ノ許ニ召致シ宿營ニ關スル命令ヲ下ス若シ



行軍中ニ於テ宿營ニ關スル事ヲ命令シ得ルノ情況ナル時ハ行軍中ニ命令ヲ下スヘシ殊ニ舍營司令官ノ如キハ可成先行セシムルヲ要ス

四、宿營命令ニ於テ示スヘキ一般ノ事項及其順序概ネ次ノ如シ

- 一、敵狀及關係アル友軍ノ情況
  - 二、諸隊ニ傳フルヲ要スル我直後ノ目的
  - 三、獨立騎兵ノ宿營地及其任務
  - 四、前衛本隊ノ宿營地及前衛ノ警戒、搜索ニ關スル事
  - 五、本隊ノ舍營地
  - 舍營司令官ノ任命
  - 警急大集合場(要スルトキ)
- 本隊ヨリ直接側方ニ出スヘキ警戒部隊ニ關スル事(要スルトキ)

六、給養ノ種類、要スレハ分配或ハ補充ノ時刻及地點

七、輜重ノ宿營地

八、高等司令官ノ居處

- 翌日ニ關スル命令受領者ヲ出スヘキ時刻
- 舍營司令官ニハ舍營ノ分配、舍營ノ內務、警戒及戰備ニ關シ必要ナル訓示ヲ與フ
- 高等司令官ト同舍營地ノ舍營日直將校或ハ時宜ニ依リ巡察將校ヲ出スヘキ部隊ヲ指定ス(高等司令官ノ副官ヨリ舍營日直將校或ハ巡察將校ヲ出スヘキ部隊ノ副官ニ傳告スルモノトス)
- 五、舍營地ニ騎行シ舍營地内外一般ノ地形ヲ視察シ舍營司令官ノ報告ヲ待チ設營ノ準備終リタル報告ヲ受クレハ入舍ス

### 其二 前衛司令官



一、高等司令官ノ訓示ニ基キ地圖ヲ按シ成ルヘク速ニ宿營及警戒ニ關スル命令即チ前衛命令(若シ前衛ノ全部ヲ以テ前哨ヲ備フル時ハ前哨命令ノミ)ヲ下ス

二、前衛命令ニ於テ示スヘキ一般ノ事項及其順序概ネ次ノ如シ

一、簡短ナル全體ノ狀況(敵軍并ニ我本隊ノ所在)

二、前衛直後ノ目的(前衛本隊ノ所在ヲ含ム)

三、前哨司令官其指揮ニ屬スヘキ諸隊前哨司令官ノ任務及此任務ノ實施ニ要スル特別ノ指示(搜索及警戒勤務ニ關シ殊ニ注意スヘキ件、敵襲ニ際シ取ルヘキ處置ノ爲メ殊ニ注意スヘキ件)

四、後方部隊(前衛本隊或ハ本隊)ヨリ步哨線ノ比隣ニ派遣スヘキ警戒隊アレハ其部隊及任務等

五、前衛司令官ノ居處

三、其後前哨ニ用ヒサル部隊ノ爲メ所要ノ命令ヲ下ス

(其示スヘキ一般ノ事項ニ就テハ「其一ノ四」ヲ參酌スヘシ)

四、宿營地ヲ騎行シ宿營地内外ノ地形ヲ視察シ情況ニ基キ前衛本隊ノ取ルヘキ戰備ノ緩急ヲ定ム

其三 前哨司令官

一、前衛司令官ヨリ命令ヲ受クレハ通常地圖ニ據リ前哨ノ配置ニ關シ目下必要ナル命令即チ前哨命令ヲ口演或ハ筆記シテ下ス(爲シ得レハ行軍中ニ於テ)

二、前哨命令ニ於テ示スヘキ事項及其順序概ネ次ノ如シ

一、簡短ナル全體ノ情況(敵軍並ニ我本隊前衛本隊ノ所在及要スレハ比隣前哨ノ所以)

二、前哨ノ目的



三、前哨騎兵警戒線ノ大略及此騎兵ノ嚴ニ警戒スヘキ道路等

四、前哨中隊ノ警戒スヘキ地ノ區域及其位置ノ概略並ニ騎兵部隊  
或ハ傳令騎兵ノ配屬

五、敵襲ニ際シ取ルヘキ處置等前哨各中隊ノ取ルヘキ處置相同シ  
カラサル時ハ其處置ニ關スル事ハ前哨中隊各項ノ末尾ニ示ス  
ヘシ)

六、前哨本隊ノ位置及前哨司令官ノ居處

三、以上ノ諸項ヲ規定スルト同時若クハ前哨司令官現地ニ到リ狀況ヲ  
視察シタル後概ネ左ノ諸件ヲ命ス

晚ニ到リ騎兵ノ歸來ニ關スル規定

夜間ニ於ケル騎兵ノ任務

戰備ノ度ニ關スル必要ノ指示(中隊及小哨ノ掩蔽下ニ入ルコト、燎

火等)

必要ト認ムヘキ特別處置ノ指定(道路ノ閉塞及其他ノ工事等)

要スレハ前哨本隊ヨリ直接ニ出ス警戒兵(小哨或ハ獨立下士哨)ノ  
指定、其警戒スヘキ地ノ區域其位置ノ概略及敵襲ニ際シ取ルヘキ  
處置等

四、其他前哨本隊ノ爲メニ次ノ諸件ヲ規定ス

前哨本隊ノ宿營法

戰備ノ度(又銃線ノ側ニ在ルヘキ部隊、兵員ノ喫食、就眠、馬匹ノ飲秣、  
卸鞍、改装及燎火等ニ關スル規定)

前哨本隊ニ要スル警戒法(外衛兵)

要スレハ前哨本隊ノ諸工事(戰鬪陣地ノ築設、交通路ノ開設、道路ノ  
閉塞等)



五、概ネ右ト同時ニ前哨本隊及前哨中隊ノ爲メ給養ノ方法ヲ規定ス(前哨中隊ニハ前哨本隊ニ於テ炊爨シタル糧食ヲ分配スルカ或ハ各中隊ニ於テ自炊セシム)

六、前哨騎兵及前哨中隊ヨリ報告到達シタル後其取リタル配置ヲ前衛司令官ニ報告ス

### 其四 前哨中隊長

一、命令ヲ受クレハ前哨中隊ハ直ニ夜間占位スヘキ地ニ至ル

此際前哨中隊長ハ成ルヘク急歩シテ其中隊ヨリ前方ニ進ミ(要スレハ護衛兵及傳令卒ヲ隨行ス)速ニ地形ヲ偵察シ前哨命令ニ基キ中隊ノ位置及其取ルヘキ警戒法(小哨及獨立下士哨ノ數及位置)ヲ決定ス(中隊ヲ其決定位置ニ停止セシム(敵眼ニ觸レシムヘカラス))

二、前方ニ在ル騎兵ト連絡シ晝間ヨリ小哨若クハ獨立下士哨ヲ前方ニ

### 配置スヘキヤ否ヤヲ決定ス

三、中隊命令ヲ下ス(前方ニ騎兵アラサルトキハ前哨中隊ハ其哨長配置ヲ終ル迄自ラ斥候又ハ監視兵ヲ敵方ニ出シテ警戒セサルヘカラス)

四、前哨中隊命令ニ於テ示スヘキ事項及順序ハ概ネ次ノ如クニシテ中隊ノ面前ニ於テ中隊長自ラ口演スルモノトス

一、簡短ナル全體ノ狀況(敵軍並ニ前方ニ在ル我騎兵、後方ニ在ル我軍即チ本隊、前衛本隊及前哨本隊ノ所在并ニ比隣哨所ノ位置)

二、中隊ノ目的

三、小哨長並ニ其指揮下ニ入ルヘキ人員、小哨ノ番號、位置、警戒スヘキ區域、搜索スヘキ地方等

四、獨立下士哨長並ニ其指揮下ニ入ルヘキ人員、獨立下士哨ノ番號、位置、警戒スヘキ區域、搜索スヘキ地方等



五、敵襲ニ際シ取ルヘキ處置要スル工事等

六、前哨中隊ノ位置

五、小哨及獨立下士哨ニ充テタル兵員ノ殘餘ヲ適當ノ地ニ又銃セシメ銃前哨ヲ配置シ之ニ守則ヲ與フ(要スレハ斥候及巡察ヲ區分シ其又銃ハ各斥候巡察毎ニ之ヲ爲サシム)

傳令騎兵等配屬セラレタル時ハ其馬繫場ヲ指定ス

六、次ニ中隊ノ爲メ次ノ諸件ヲ規定ス

各自ノ背囊ヲ置クヘキ場所

又銃線ノ側ニ在ルヘキ者ト休憩ニ就クヘキ者トノ比例及其交代

并ニ休憩ノ場所

掩蔽下ニ入ルヘキヤ否ヤ

燎火ヲ許スヤ否ヤ

馬匹交互ノ飲秣、鞍ノ改装

要スレハ前哨中隊ニ要スル工事

七、成ルヘク速ニ其取リタル配置法及夜間ノ爲メ豫定シタル配置法ヲ單簡ナル略圖ト爲シ之ニ必要ナル説明(敵情、地形、工事及比隣小哨トノ連絡等ニ就テ)ヲ附シ前哨司令官ニ報告シ且比隣ノ前哨中隊及前方ニ在ル騎兵ニモ亦中隊配置ノ大要(單簡ナル略圖ヲ可トス)ヲ通報ス

八、前哨本隊ヨリ中隊及傳令騎兵ノ糧食及馬糧ヲ受領セハ速ニ之ヲ中隊ニ分配シ且中隊ノ使役ヲシテ糧秣ヲ小哨及獨立下士哨ニ分配セシム

### 其五 小哨長及獨立下士哨長

一、前哨中隊(或ハ前哨本隊)ヨリ命令ヲ受クレハ直ニ其指定セラレタル



任地ニ前進シ爲シ得ル限リ黄昏前ニ能ク其地形ヲ認識シ複哨及下士哨ノ個數及位置ヲ決定シ兵員ヲ哨所ト爲スヘキ位置ニ停止セシメ(敵眼ニ觸レシムヘカラス)命令ヲ口演ス

(獨立下士哨長ノ所置ハ下士哨ヲ配置セサルノ外全ク小哨長ニ同シ故ニ以下小哨長ニ關スルモノ、ミヲ舉ク獨立下士哨長ノ所置ハ右ノ外小哨長ト同一ナリト知ルヘシ)

二、此命令ニ於テ示スヘキ事項及順序概ネ次ノ如シ

一、簡單ナル全體ノ狀況(敵軍並所屬前哨中隊(或ハ前哨本隊)及比隣哨所ノ位置)

二、哨所ノ番號及位置

三、哨兵ノ編成(一哨兵毎ニ步哨掛下士或ハ上等兵一名兵卒六名乃至十二名)

四、哨兵ノ任地及之ニ赴クヘキ捷徑

三、然ル後小哨長ハ步哨長ヲ決定シ守則ヲ授クル爲メ少クモ二名ノ兵卒ヲ隨ヒテ前進ス(最モ重要、危殆ナル地點ノ步哨配置ヲ先ニス)

此際殘餘ノ兵員ハ小哨長不在中故參下士ノ指揮ニ一任シ通常執銃ノ儘戰備ヲ保持セシム(形勢妨ナケレハ又銃ヲ爲シ其後方ニ休憩セシメ銃前ニ單哨ヲ出シ故參下士之ニ假守則ヲ授ク)

四、小哨長ハ先キニ指定セル各哨兵ノ任地ニ到リ步哨ニ守則ヲ授ケ且交代兵ニモ聽聞セシム

然ル後下士哨ヲ除キ他ノ下士或ハ上等兵ヲシテ第二及第三號ノ交代兵ヲ率ヒテ小哨ニ歸還セシム

五、小哨長ハ步哨線ヲ決定シ守則ヲ與ヘ終レハ其哨所ニ歸還シ步哨ニ充テサル者ヨリ若干ノ斥候及巡察並ニ其他ノ勤務兵ヲ區分ス



六、次ニ兵員ヲ適當ノ地ニ又銃セシメ(歩哨ノ交代兵中同時ニ交代スヘキ者及各斥候、巡察毎ニ各一團ト爲シテ又銃シ以テ他ノ者ニ拘ラス)解銃ヲ爲シ得ヘカラス(若シクハ銃架ニ托シ置カシム)傳令騎兵配屬セラレタルトキハ其馬繫場ヲ指定ス

七、銃前哨ヲ出シ之ニ守則ヲ與フ

八、次ニ戰備ノ度ニ關シテ概ネ次ノ諸件ヲ規定ス

背囊ヲ卸スヘキヤ否ヤ、背囊ヲ卸シタルトキハ之ヲ置クヘキ場所又銃線ノ側ニ在ルヘキ者ト休憩ニ就クヘキ者トノ比例及其交代並ニ休憩ノ場所、又睡眠ヲ許スヘキヤ否ヤ及其區分掩蔽下ニ入ルヘキヤ否ヤ、燎火、喫煙ヲ許スヘキヤ否ヤ、要スレハ小哨ニ要スル工事

九、成ルヘク速ニ單簡ナル略圖ヲ以テ其配置法ヲ中隊長(前哨本隊ヨリ出サレタルモノハ前哨司令官)ニ報告シ相隣スル小哨若クハ獨立下士哨ト交通シ連絡ヲ取ル

十、以上ノ處置ヲ終リタル後小哨長ハ天光ノ在ル限リ其區域内ヲ巡視シテ地形ヲ認識シ敵襲ニ際スル處置ヲ研究ス(哨所ヲ離ル、時ハ常に其所在ヲ知ラシムヘシ)夜間ハ其小哨ノ位置ニ在ルヘシ

### 其六 舍營司令官

一、舍營司令官ト同舍營地ニ舍營スヘキ各隊ノ設營隊及同舍營地ノ舍營日直將校ニ舍營スヘキ市村ノ某地點ニ直ニ集合スヘキヲ命ス(各隊ノ命令受領者ヲシテ各隊ニ傳達セシムルカ或ハ要スレハ騎兵若干ヲ傳騎トシテ分屬セラレタキコトヲ高等司令官ニ請求シ此騎兵



ヲ以テ各隊ニ傳達ス)

歩兵聯隊及砲兵聯隊ハ設營トシテ通常大隊副官一名(即チ設營隊司令ニシテ聯隊ノ舍營區ヲ舍營司令官ヨリ受領シ聯隊本部及各大隊ノ舍營區劃ヲ決定セルモノ)各大隊毎ニ特務曹長或ハ曹長一名(即チ大隊ノ舍營區ヲ設營隊司令ヨリ受領シ大隊本部及各中隊ノ舍營區劃ヲ決定スルモノ)其他聯隊本部附下士各大隊本部附下士及各中隊附下士各一名並ニ所要ノ兵卒ヲ出スモノニシテ各兵種毎ニ設營隊司令若クハ他ノ高級故參者之ヲ引率シ舍營司令ヨリ指定セラレタル集合地點ニ至ル

其他ノ兵種モ亦概ネ之ニ準シテ設營隊ヲ出ス

要スレハ設營隊司令ハ先行シテ舍營司令官ノ許ニ至ル

二、舍營司令官ハ其副官ヲ隨ヒ(或ハ軍醫ヲモ隨フ又舍營日直將校來着

スレハ之ヲモ隨伴ス)舍營地タル市村内外ノ地形ヲ巡視シ地方吏等現在スレハ之ト協議ス

(副官、軍醫及舍營日直將校ヲ補助トシテ之ニ各分擔ノ視察任務ヲ與フレハ舍營地ノ分配等ヲ迅速ナラシムルヲ得

視察ヲ要スル諸件概ネ次ノ如シ

高等司令部及傳令騎兵ノ宿舍  
各隊ノ舍營區

砲廠馬繫場及行李置場ト爲スヘキ場所

警急大集合場及警急集合場ト爲スヘキ場所及道路ノ關係

飲水、飲馬場ト爲スヘキ場所及用水ノ良否

外衛兵及風紀衛兵ヲ配置スヘキ場所

警戒及戰備ノ爲メ守備スヘキ地及工事ヲ施スヘキ地



三、舍營司令官ノ視察ト副官、軍醫及舍營日直將校ノ視察報告トヲ參酌シ高等司令官ノ訓示ニ基キ舍營區ノ分配、舍營ノ内務、警戒ノ方法及戰鬪準備ノ程度ヲ決定シ設營隊ノ集合シアル地點ニ至リ設營隊及舍營日直將校ニ所要ノ命令ヲ與フ

四、設營隊ニ下スヘキ命令ニ於テ示スヘキ事項概ネ左ノ如シ

各隊ノ舍營區劃爲シ得レハ略圖ヲ以テ示スヲ簡便トス

大行李ノ舍營ニ關スル規定

飲水、飲馬場ノ配當

要スレハ給養ニ關スル件

各隊ノ舍營ニ入ルヘキ時刻ノ制限及要スレハ舍營地ニ入ル爲メ取ルヘキ道路ノ配當

高等司令官及舍營司令官ノ宿舍

設營隊ハ右ノ命令ヲ受クレハ其司令ハ先ツ本部ノ宿舍ヲ決定シ之ヲ本部附下士ニ分配シ次ニ各大隊ノ舍營區劃ヲ決定シ之ヲ各大隊ノ設營特務曹長(曹長)ニ分配ス  
各大隊ノ設營特務曹長(曹長)ハ先ツ本部ノ宿舍ヲ決定シ之ヲ大隊本部附下士ニ分配シ次ニ各中隊ノ舍營區劃ヲ決定シ之ヲ各中隊ノ設營下士ニ分配ス  
各中隊ノ設營下士ハ更ニ其中隊細部ノ宿舍ヲ決定シ且爲シ得レハ宿舍ノ前ニ隊號及人員ヲ標記(隊號ハ間牒ニ知ラレサル如ク省略シテ記載シ又標記ハ宿舍ニ就キタル後速ニ之ヲ撤去スヘキモノトス)ス

設營ヲ終レハ逐次上級者ニ報告シ設營隊司令ハ舍營司令官ニ報告ス而シテ各設營隊ハ其所屬隊ノ位置ニ至リ之ヲ誘導シテ舍營



ニ入ル

二十三

五、舍營日直將校ニ下スヘキ命令ニ於テ示スヘキ事項概ネ次ノ如シ  
外衛兵及風紀衛兵配置ニ關スル件並ニ警報ニ際シ衛兵ノ動作  
特ニ戰備ヲ保持スヘキ部隊(要スルトキ)  
舍營地防禦ノ爲メ守備スヘキ地點、工事及之ニ任スル部隊(要スルトキ)  
トキ)  
警急大集合場之ヲ設ケタルトキ)ニ至ル道路ノ配當  
警急集合場(其全部若クハ一部ヲ舍營司令官ニ於テ定メタル時)及  
之ニ至ル道路ノ配當  
警報ニ際シ各部隊ノ守備スヘキ地點  
警報ニ際シ騎兵、砲兵及行李ノ爲スヘキ動作  
戰備及靜肅保持ニ關スル規定

高等司令官及舍營司令官ノ宿舍

六、巡察將校ノ届告ヲ受クレハ之ニ必要ノ命令ヲ與フ

其命令ニ於テ示スヘキ事項概ネ次ノ如シ

巡察區域巡察回數及巡察時刻

戰備及靜肅保持ニ關スル規定

高等司令官及舍營司令官ノ宿舍

七、以上ノ處置ヲ終レハ高等司令官ニ所要ノ報告ヲ爲ス

### 其七 舍營日直將校

一、舍營日直將校(各舍營地ニ通常大尉一名、大部隊ニ在テハ佐官)ニ任命  
セラレタル者ハ直ニ舍營司令官ノ許ニ至リ届告シ舍營ノ内務及警  
戒ニ關シ指示ヲ受ク(時トシテ舍營司令官ノ命ニ依リ其補助ト爲リ  
舍營内外ノ地形ヲ巡視シ内務及警戒ニ關スル意見ヲ具申ス)



二、舍營ノ内務及警戒ニ關シ必要ノ命令ヲ與ヘンカ爲メ部隊日直將校下士ノ集合スヘキ地點ヲ各隊ニ通知ス

三、舍營司令官ヨリ舍營ノ内務及警戒ニ關シ命令(其六ノ五ヲ参照スヘシ)ヲ受ケシ後要スレハ舍營日直將校自ラ舍營地内外ノ地形ヲ視察シ衛兵ノ配置ニ關スル細部ヲ決定ス

四、然ル後部隊日直將校下士ノ集合地點ニ至リ所要ノ命令ヲ與フ其命令ニ於テ示スヘキ事項概ネ次ノ如シ

外衛兵及風紀衛兵ヲ出スヘキ部隊、衛兵ノ人員並ニ其集合地點  
特ニ戰備ヲ保持スヘキ部隊(要スルトキ)  
舍營地防禦ノ必要上守備スヘキ地點、工事及之ニ任スル部隊(要スルトキ)

警急大集合場之ヲ設ケタルトキニ至ル道路ノ配當

警急集合場(其全部若クハ一部ヲ舍營司令官ニ於テ定メタル時)及之ニ至ル道路ノ配當

警報ニ際シ各部隊ノ守備スヘキ地點

警報ニ際シ騎兵、砲兵及行李ノ爲スヘキ動作

戰備及靜肅保持ニ關スル規定

舍營司令官及舍營日直將校ノ宿舍

五、次ニ外衛兵ノ集合地ニ到リ衛兵所ヲ定メ所要ノ哨兵ヲ配置シ之ニ守則ヲ與ヘシ後風紀衛兵ノ集合地ニ到リ衛兵所ヲ定メ所要ノ哨兵ヲ配置シ之ニ守則ヲ與フ

外衛兵ヲ配置スルニ當リ各其方面ノ近傍ニ宿營スル部隊ヨリ所要ノ下士哨若クハ複哨ヲ出サシムルヲ以テ足レリトスル時ハ各部隊日直ニ哨兵配置ヲ委任スルヲ得



六以上ノ處置ヲ終レハ舍營司令官ニ所要ノ報告ヲ爲ス

舍營日直將校ハ其舍營區内ヲ巡視シ晝夜衛兵ヲ監視シ且ツ舍營司令官ノ規定確實ニ行ハレアルヤ否ヤヲ視察ス

### 其八 巡察將校

一、巡察將校ノ任命ヲ受クレハ直ニ舍營司令官ノ許ニ至リ届告シ必要ノ指示ヲ受ク

一、指定セラレタル區域内ヲ巡視シ舍營司令官ノ定メタル戰備及靜肅保持等確實ニ行ハレアルヤ否ヤヲ監察ス

三、巡視ヲ終ル毎ニ異狀ノ有無ヲ舍營司令官ニ報告ス

### 其九 部隊日直將校下士

一、部隊日直將校下士各兵種ノ大隊(大隊ヲ成サ、ル隊ハ聯隊)毎ニ中(少)尉一名各獨立中隊若クハ之ニ準スル部隊ハ各下士一名ノ任命ヲ受

クレハ直ニ舍營日直將校ノ許ニ至リ届告シ舍營ノ内務及其警戒ニ關シ必要ノ命令ヲ受ク

二、舍營日直將校ヨリ受ケタル命令(其七ノ四)ヲ參照スヘシ)中自己ノ所屬隊ニ關スル事項ヲ隊長ニ報告ス

三、所屬隊ノ舍營區ヲ巡視シ區内ノ靜肅及軍紀ニ注意シ且其隊長及舍營司令官ノ規定ヲ實施ス

四、時トシテ舍營日直將校ノ補助ト爲リ其所屬隊ノ舍營區方面ニ於ケル哨兵ヲ配置シ之ニ守則ヲ與フ

五、勤務實施ノ結果ヲ其隊長及舍營日直將校ニ報告ス

### 其十 各隊長(大隊長ニ就テ述フ)

一、高等司令官ノ宿營ニ關スル命令(其一ノ四)ヲ參照スヘシ)ニ基キ其隊ノ爲メ宿營ニ關スル命令ヲ下ス其命令ニ於テ示スヘキ事項概ネ次



ノ如シ

簡單ナル全體ノ狀況

大隊ノ舍營地及緊急集合場並ニ大隊長ノ宿舍

診斷時刻及診斷所

糧秣分配ノ時刻及分配所

飲水、飲馬場ノ配當

大行李ノ舍營ニ關スル規定

日夕點呼ニ關スル規定

酒保開設、閉鎖ノ時刻及場所

入寢及消燈並號音ニ關スル制限

其他所要ノ件

以上ノ事項ハ多クハ之ヲ同時ニ達スル能ハサルヲ以テ當初ハ唯單

簡ナル命令ノミヲ下シ速カニ各中隊ヲ舍營ニ入ラシメ然ル後中隊ノ命令受領者(曹長或ハ日直下士)ヲ大隊本部ニ集メ大隊副官ヲシテ必要ノ事項ヲ達セシムルモノトス

二、配與セラレタル舍營地區内ニ於テ大隊長ハ適宜ノ處置ヲ爲スヲ得其定ムルヲ要スルモノ概ネ左ノ如シ

大隊本部及各中隊ノ舍營區

緊急集合場及之ニ至ル道路

砲廠、馬繫場及行李置物

炊事場及診斷所並ニ糧秣分配所

酒保

飲水、飲馬場

以上ノ諸件ハ設營隊ニ於テ偵察概定スルヲ通常トス



三、舍營地ノ最高級者ノ指定ニ依リ舍營日直將校及巡察將校ヲ割出シ又大隊ニ在テハ其隊ノ部隊日直ヲ割出シ其官氏名及舍營司令官ノ宿營ヲ中隊ニ達ス

四、部隊日直ヨリ舍營司令官ノ規定ニ關スル報告(其九ノ二及其七ノ四)ヲ參照スヘシヲ受クレハ次ノ人員ヲ割リ出シ之ヲ中隊ニ達ス

外衛兵ノ人員及其集合地點並ニ集合時刻

風紀衛兵ノ人員及其集合地點並ニ集合時刻

五、其他舍營司令官ノ規定及自己ノ意見ニ基キ戰備ノ度、靜肅及軍紀維持並ニ警報ニ際スル規定ヲ定メ之ヲ各中隊及部隊日直ニ達ス

### 步兵機關銃操典草案ノ部

#### 質 問

第五十二第一項末尾ニ「速ニ穿貫的効力ヲ奏スルモノトストアリ穿貫的効力トハ如何ナルコトヲ謂フヤ

#### 答

穿貫的効力トハ恰カモ錐ヲ以テ孔ヲ穿ツカ如ク彈丸ヲ以テ敵線ニ破孔ヲ作ルナリ即チ敵線ノ一部ニ多大ノ損害ヲ與ヘ其部分ノ抵抗力ヲ全ク失ハシムルナリ

#### 質 問

機關銃ヲシテ持久的射撃ヲ爲サシムルカ如キハ大ナル誤用トスト如何ナル理由ナリヤ第五十二第二項ノ「故ニ」ハ何ヲ受ケタルモノナルヤ



不明ナリ説明ヲ乞フ

答

發射速度迅速ナルニ依リ彈藥補充ノ關係上持久的射撃ヲ不可トスルナリ

「故ニ」ハ前文ヲ總テ受ケタルモノトス即チ前項ノ如キ性能ナルカ故ニ云々ノ意ナリ然レトモ發射速度ノ迅速ナルコトヲ主トシテ受ケタルナリ

質問

機關銃ハ歩兵ノ用ヒ得ル遮蔽物ハ總テ之ヲ利用シ得ルモノナルコトハ第五十三ニ示ス所ナルモ立姿高ノ遮蔽物ハ利用シ得サルカ如シ如何

答

立姿高ノ遮蔽物ニテモ若干之ヲ改築スルカ或ハ若干補助物ヲ用ヒ機關銃ニ立射高ヲ與フル如クスレハ之ヲ用ヒ得ハシ必スシモ其儘ニテ用ヒ得ルトハ限ラス本文ハ決シテ其意義ニハアラス

質問

夜間ノ機關銃射撃ニ於テ効果ヲ收メ得ル場合ノ内「火光ニ由リ目標ノ照明セラレアルトキ」トハ如何(第五十四ノ第二項)

答

露營火或ハ我軍ノ探照燈等ニ依リ目標照明セラレ其位置明カナルトキヲ謂フ

質問

第五十六敵砲兵ト威力ヲ競フハ即チ砲兵ニ代用セルニアラサルヤ此間ニ差異アリヤ如何



答

砲兵ニ代用スルト遠距離ニ在リテ敵砲兵ト威力ヲ競フトハ同一ナラ  
ス砲兵ニ代用スルトハ即チ戦闘ノ初期及戦闘ノ各經過間歩兵ノ前進  
ヲ援助スル爲メ砲兵ヲ用フルカ如ク機關銃ヲ使用スルナリ故ニ其目  
標モ亦或ハ敵ノ砲兵ナルコトアリ或ハ敵ノ歩兵ナルコトアリ又砲兵  
ノ如ク敵ノ遮蔽物或ハ敵ノ機關銃ヲ破壊スル目的ニテ使用スルハ亦  
砲兵ニ代用スルナリ  
遠距離ニ在リテ敵砲兵ト威力ヲ競フトハ敵砲兵ト戦闘シ火力ノ優勢  
ヲ占メントスルナリ

質 問

機關銃ヲ一銃毎ニ分割シテ使用スルハ特別ノ場合ニ限ルモノナルコ  
トハ第五十七ニ示ス所ナリ此場合ノ一例ヲ示サレタシ

答

機關銃ヲ一銃毎ニ分割シテ使用スルハ全ク特別ノ場合ナリ故ニ例ヲ  
以テ示スハ困難ナルモ次ノ場合ノ如キハ其一例ナルヘシ  
A 堡壘ニ屬セラレタル二挺ノ機關銃アリB方向ヨリ敵ノ攻撃ヲ受  
ケタル爲メ之ヲ擊攘セントシ火線ニ使用シタルトキ此機關銃ノ威  
力ニ依リ敵ノ突撃ハ大ニ阻害セラレタリ此時C方向ヨリスル敵ノ  
突撃亦猛烈ニシテ之ヲ擊攘スル爲メ機關銃ヲ必要トスルモ全クB方  
向ノ射撃ヲ中止スルコトハ亦適當ナラサルトキノ如キC方向ノ敵  
ニ對シテハ一銃ヲ分割シテ使用スルコト、ナルヘシ  
右ノ如キ全ク特別ノ場合ニシテ一時的ノ使用ニ過キサレヘシ獨逸操  
典ニテハ一銃毎ニ分割シテ使用スルコトハ之ヲ禁止シアリ

質 問



機關銃ハ一般ニ正面ノ步兵部隊ト共ニ動作スルヤ或ハ敵翼ヲ包圍セ  
ントスル部隊ト共ニ動作スルヤ

答

機關銃ノ使用ハ戰鬥ノ目的及現時ノ狀況ニ依リ決定セラルヘキコト  
ハ第五十九ニ示スカ如クニシテ之ヲ一定スルヲ得ス然レトモ露國操  
典ニ示ス左ノ原則ハ亦參考タルヲ得ン乎曰ク

一般ニ機關銃隊ハ敵ノ側面ニ對シ射撃ヲ集注シ得ル如ク配置スル  
ヲ可トス從ヒテ防禦ニ在リテハ逆襲部隊ト共ニ攻撃ニ在リテハ包  
圍部隊ト共ニ其動作ヲ施行スルカ如キハ其一例ナリ

質 問

第六十ノ末文ニ曰ク各銃ノ間隔ハ成ル可ク廣キヲ可トスト雖六銃ヨ  
リ成ル一隊ノ正面幅ヲ約百米ヨリ超過セシメサルヲ要スト約百米ニ

限界シタル理由ヲ問フ

答

各銃ノ間隔廣ケレハ損害少キノ利アリ然レトモ過度ニ之レヲ擴張ス  
ルトキハ一名ノ將校ニテ指揮スルコト困難トナル要スルニ各銃ノ間  
隔ハ砲兵中隊ノ各砲車ノ間隔ト同シク一ノ集束彈或ハ一砲彈ノ束彙  
ニテ二銃同時ニ損害ヲ被ラサル爲メニハ約二十米ニ開クヲ可トス然  
ルトキハ六銃ヨリ成ル一隊ノ正面幅ハ約百米トナルヘシ而シテ之レ  
ヨリ擴張スルトキハ其ノ指揮困難トナリ且ツ陣地ニ要スル地域ヲ増  
大ニシ然カモ敵ヨリ受クル損害ノ關係ハ前述ノ如クニテ變化ナシト  
ス

質 問

機關銃ニハ掩護隊ヲ附スヘキモノナリヤ



答

機關銃ハ其附近ニ在ル歩兵ニ由リテ掩護セラル、ヲ原則トスルコトハ恰カモ砲兵ニ同シ然レトモ通視不十分ナル土地及夜間ニ在リテハ特別ノ掩護隊ヲ要ス  
斯ノ如キ場合ニ在リテハ翼及背後ノ警戒並ニ殘置セル駄馬ノ爲メ歩兵ノ小部隊ヲシテ掩護セシムルヲ可トス而シテ機關銃隊ノ附近ニ在ル歩兵隊長ハ銃隊長ノ掩護請求ニ應スヘキモノトス

質 問

機關銃ノ陣地進入ノ要領ヲ問フ

答

機關銃ノ陣地進入ハ砲兵ニ於ケルト概ネ同一トス  
陣地進入ニ方テハ諸動作ヲ極メテ迅速ナラシメ決シテ射撃開始ノ時

機ヲ無益ニ遲緩セシムルコトナキヲ要ス而シテ進入ニ際シテハ成ル可ク永ク馬背ヲ利用スルヲ可トス但シ其取ルヘキ歩度及銃ヲ駄馬ヨリ卸下スルノ時機ハ專ラ戰況及地形ニ關スルモノトス陣地進入ニ遮蔽物ヲ利用シ且敵ニ我陣地ヲ察知セシメサルトキハ不意ニ射撃ヲ開始シ得ルノ利アリ若シ遮蔽物ナキトキ或ハ遮蔽物アルモ之ヲ利用スルトキハ時間ヲ要シ時機ヲ失スルノ虞アル爲メ猶豫ナク進入ヲ要スルトキハ神速ニ進入シテ敵ノ不意ニ出テサルヘカラス  
陣地進入ニ方リ敵襲ニ對スル警戒ハ所屬部隊長ノ任ナリト雖銃隊長モ亦力メテ適當ナル方法ニ依リテ自ラ警戒スルヲ要ス通視不十分ナル地形ニ於テハ殊ニ然リトス  
地形或ハ目標ノ種類ニ由リ注意シテ陣地ヲ占領スルヲ要スルトキハ先ツ銃長ヲ(時トシテハ射手ヲモ)其進入セントスル陣地ニ招致シ目標



及各銃ノ位置ヲ示シ進入及射撃ニ關シ豫メ教示ヲ與フルヲ可トス銃隊長ハ常ニ地形ノ利用ニ注意シ敵火ノ下ニ於ケル銃隊ノ運動ヲシテ之ニ適合セシムルヲ要スト雖之カ爲前進力ヲ衰退シ或ハ戰鬥動作ヲ遲緩ナラシメ又ハ指示セラレタル範圍ヲ脱逸スルカ如キハ絶對ニ之ヲ避ケサルヘカラス  
各銃ハ必スシモ同一ノ方法ヲ以テ進入スルヲ要セス然レトモ勉メテ同時ニ進入スヘシ

質 問

第六十一ニ銃隊長ハ自己ノ責任トシテ一般ノ狀況ニ鑑ミ機關銃ヲ適當ニ使用スヘキ方法並ニ時機ヲ探知スルヲ要スルコトヲ示セリ探知ノ方法如何

答

砲兵隊ニ在テハ情況探知ノ爲メ砲兵斥候トシテ將校ヲ派遣シ得ルモ銃隊長唯一人ノ外將校ナキ機關銃隊ニ在テハ銃隊長自身ノ活眼ニ據ラサルヘカラサルナリ

質 問

銃隊長ノ位置スヘキ射撃指揮ニ便利ナル點ハ一定ノ原則アリヤ(第六十二)

答

銃隊長ノ位置ハ一定スルヲ得ス號令ヲ全隊ニ徹底セシムル爲ニハ通常中央附近ヲ可トスルモ風向ヲ顧慮シ一翼ヲ適當トスルコトアリ又全隊ヲ監視スル爲ニハ稍火線ノ後方ヲ可トスルモ敵情ヲ通視シ并ニ射彈觀測ノ爲ニハ火線ニ位置スルヲ可トスルコトアルヘシ故ニ地形ヲ案シ前記ノ諸件ヲ顧慮シ適宜其位置ヲ決定スルヲ要ス



質 問

第六十二ノ中程ニ使用シ得ヘキ彈藥ヲ顧慮シ以テ射撃ノ應用ヲ適切ナラシメ云々トアリ射撃ノ應用トハ如何ナルコトヲ指スヤ

答

連續射撃ヲ行フヤ或ハ連數ヲ限定スヘキヤ又ハ射撃ヲ中止スルヤ或ハ分火スヘキヤ又ハ目標ヲ變換スヘキヤ等ヲ指スモノトス

質 問

彈藥小隊ノ位置機關銃射撃陣地ヨリ百米ヲ超過スルトキハ適當ニ射撃ヲ持續スル能ハストハ如何ナル理由ニ依ルヤ

答

野外要務令ニ依レハ機關銃隊戰線ニ於ケル彈藥ノ一半(一箱ヲ消費セハ銃長ハ彈藥手ヲシテ空箱ヲ彈藥小隊ニ交付シ充實シタル彈藥ヲ銃

側ニ持チ來ラシムヘキモノトス

今火線ニアル空箱ヲ後方五十米ニ運搬シ彈藥小隊ヨリハ亦前方五十米ニ充實シタル彈藥箱ヲ搬送シ以テ中間ニテ交換スルトスルモ火線ノ彈藥手ハ約五十米ヲ往復スルコト、ナル然ルニ一箱ニ現存スル彈藥數ト射撃速度トノ關係上此往復時間約一分時ノ間ニ火線ニアル他ノ一半即チ一箱ヲ消費スルニ至ルヘキカ故ニ其補充ヲ圓滿ニシ適當ニ射撃ヲ持續スル爲ニハ百米ヲ超過セサルヲ要スルナリ

質 問

銃長カ數銃ヲ指揮スルハ他ノ銃長死傷セシ如キ時ナルヤ(第六十四)

答

銃隊ヲ分割シテ使用スルトキ銃隊長ノ在ラサル一半ハ故參ノ銃長之ヲ指揮スルモノトス銃長死傷シタル場合ハ其部下ノ銃手ノ内故參ノ



者代テ銃長タルヘキヲ以テ此事ヲ謂フニ非ラス

質問

第六十四第二項銃長ノ任務中集束彈道ノ濃密部ヲ導クトハ如何ナルコトヲ爲スモノナルヤ

答

靴器ノ性能上小銃ト異リ一發毎ニ修正シテ命中ヲ期スルコト能ハス故ニ彈着ノ景況ヲ觀測シ其濃密部ヲ目標ニ導ク如ク射手ヲ指導スルナリ

質問

第六十七第一項ニ一般攻撃ノ經過中一地ニ對シ突貫的效果ヲ必要トスルニ際セハ直ニ之ヲ戰鬥ニ參與セシムルモノトス云々トアリ突貫的效果トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ

答

突貫的ニアラス穿貫的ナリ坊間ニ販賣スル機關銃操典草案ノ中ニハ往々字句ノ錯誤アリ穿貫的ノ解ハ第五十二ノ爲メニ述ヘタルモノニ同シ

質問

第六十七第一項ノ攻撃ノ經過中一地ニ對シ穿貫的效果ヲ必要トスル場合ハ即チ歩兵ノ突撃ヲ準備スル場合ニアラサルヤ然ルニ本文ニ依レハ突撃ヲ準備スル場合ノ外尙機關銃ヲ使用スル場合アルカ如シ如何ナル場合ナリヤ

答

歩兵ノ突撃ヲ準備スル爲メニ使用スル攻撃ノ一經過中一地ニ對シ穿貫的效果ヲ必要トスル場合ノ一ニシテ最後ノ時機ナリ此他此時機ニ



至ル前即チ突撃ヲ準備スヘキ歩兵陣地ニ達セントスル歩兵ヲ援助スル爲メニ歩兵ニ損害ヲ與フル敵線中ノ最モ重要ナル部分ニ對シテ之ヲ用フルコトハ屢々之レアルヘシ  
攻撃ニ在テモ敵ノ逆襲ヲ受ケタル場合ノ如キ之ヲ使用スルコトアルハ勿論ナリトス

質 問

第六十七第三項ノ末文ニアル「近距離」トハ歩兵射撃教範ノ近距離ナルヤ

答

然リ即チ六百米以内ヲ謂フ

質 問

防禦ニ於テ機關銃ヲ最初ヨリ第一線ニ配置シ一定ノ任務ヲ負擔セシ

ムルコトヲ避ケシムル理由如何(第六十八)

答

機關銃ハ其性能上持久火戰ニ適セサルモノナルヲ以テ之ヲ使用スルノ時機ハ緊要ナル短時間ニ過キサルモノトス然ルニ戰況ノ變遷ハ到底豫メ之ヲ推定スルヲ得ス若シ必要ヲ豫期シ之ヲ配置シタル方面ニシテ却テ之ヲ必要トセス機關銃ナキ他方面ニ於テ之ヲ要スルコトアラハ如何殊ニ機關銃ノ具備スル運動性ノ利益ヲ應用スルコトヲ願慮セサルヘカラス故ニ之ヲ後方ニ控置シ必要ニ際シテ初メテ使用スルヲ適當トス

質 問

第六十九ニ攻撃奏功後射撃ヲ以テ敵ヲ追撃シ且敵ノ恢復攻撃ニ備フヘシトアリ此追撃射撃後ノ追撃運動即チ歩兵操典草案第二百六十九



ノ末項ニ示ス所ノ「敵兵我射撃界ヲ脱スルヤ各部隊ハ直ニ運動ヲ開始シ連繫ト秩序トヲ害セサル限リ猛烈果敢ニ敵ヲ追撃スヘシ」ナル追撃動作ニ相當スルモノハ機關銃ニ在テハ所屬部隊長ノ指示ニ依ルヤ又ハ獨斷ニテ運動スヘキモノナルヤ

## 答

機關銃隊ハ歩兵ト同シク別命ナクモ連繫ト秩序トヲ害セサル限リ猛烈果敢ニ追撃ヲ行ハサルヘカラス  
獨逸操典ニ於テハ此事ニ關シ次ノ如ク示シアリ亦以テ參考トスルニ足ル

戰勝ノ後ハ機關銃隊ハ勝利ヲ利用シ冒險的ニ追撃ヲ實行セサルヘカラス實ニ此兵種ハ其火力ト運動性トニ由リ甚タ追撃ニ適スルモノナリ而シテ追撃ハ力ノ及フ限リ之ヲ繼續スヘシ此時ニ方リ機關

銃隊ハ成シ得ル限リ敵ニ接近シ最有效距離ニ進ミ敵ノ集合及停止ヲ妨害スヘシ

## 質問

機關銃射撃ニ於ケル瓦斯壓力ノ調整法ヲ問フ

## 答

左ノ場合ニハ規整子ヲ緊縮スヘシ

射撃緩慢ニ過クルトキ

空薬莢ノ飛出ヲ見サルトキ

空薬莢ノ飛出稍活潑ナラサルトキ

之ニ反シ左ノ場合ニハ瓦斯ノ壓力過大ナルノ徴ナルヲ以テ規整子ヲ適度ニ緩ムルヲ可トス

銃ノ顫動過大ナルトキ



激シク反撞ヲ肩ニ感スルトキ

五十

### 質 問

機關銃ノ引鐵ノ逆鉤ニ鉤セサルコトアルハ如何ナル原因ニ基クモノナルヤ

### 答

左ノ三原因アリ

一、復坐發條ノ間ニ異物介在シテ其收縮不完全ナルカ若クハ規整子ノ分畫過大ニシテ瓦斯ノ壓力活塞ヲ全ク後退セシムルニ足ラサルカ爲メ

二、活塞遊底ノ各部ニ異物(燼渣、黃銅ノ削片、脫出雷管、抽筒子爪ノ碎片等)ノ附着、塗油ノ乾燥若クハ機關ノ各部ニ起縁ヲ生シ活塞及遊底ノ摩擦過大トナリ活塞ノ後退ニ抵抗スルカ爲メ

三、引鐵若クハ逆鉤ノ磨滅及起縁其他引鐵發條ノ衰弱等ノ爲メ

### 質 問

機關銃射撃ノ際雷管不發ノ場合ニハ如何ニスルヤ

### 答

槓杆ヲ用キ活塞ヲ後方ニ引クヘシ然ルトキハ不發彈ヲ蹴出シ射撃ヲ再興スルヲ得ルモノトス

### 質 問

機關銃射撃間彈藥筒ノ抽出作用不能トナルコトアリ如何ナル原因ニ依ルヤ

### 答

抽筒子ト圓筒トノ間ニ異物ノ介在スルカ又ハ藥莖ノ膨張過度等ニ基クモノトス此他抽筒子爪ノ缺損抽筒子發條ノ彈發力遲鈍抽筒子室ノ



變形等ニ起因スルコトアリ

五十二

質 問

機關銃ニ裝填ノ際ニハ紙匣ヲ脱セサルヲ可トスト謂フ其理由如何

答

若シ紙匣ヲ脱スルトキハ彈藥ノ變位、鉸ノ屈曲、塵埃ノ附着等ヲ生シ射撃ニ故障ヲ誘發スルコトアルヲ以テナリ

野戰砲兵操典改正草案ノ部

質 問

野戰砲兵ノ任務ハ從來ト異ラサルヤ

答

野戰砲兵ハ戰鬪ヲ開始シ步兵戰ニ先チ敵ノ砲兵ヲ撲滅スヘキコトハ從來ノ原則ナリシモ現今ハ稍其趣ヲ異ニスルカ如シ是レ防楯ヲ附シタルカ爲メ益其防禦力ヲ加ヘタルト照準具ノ發達ヨリ益多ク遮蔽障地ヲ利用スルニ至リタルト否ラサルモ築城ニ依リ掩護セラル、トニ依リ縱令優勢ノ砲數ヲ以テスルモ敵ヲシテ其射撃ヲ中止セシムルコトハ容易ナラス全ク敵砲ヲ撲滅スルカ如キハ殆ント爲シ能ハサル所ナルヲ以テナリ又砲兵戰ノ結果ヲ待ツカ如キハ之ニ要スル時間ト彈



藥トノ關係上適當ナラサル所トス

獨逸ニ於テハ新操典ニ示スニ左ノコトヲ以テセリ是レ敢テ獨逸ノミ  
ノ原則ニアラス吾人ハ亦宜シク之ヲ遵守スヘキナリ曰ク

歩兵ヲ有効ニ援助スルハ野戰砲兵ノ主ナル任務トス其戰闘動作ハ  
時期及地區ニ由リ歩兵ト分離スルヲ得ス砲兵ハ原則トシテ常ニ友  
軍歩兵ニ最モ危嶮ナル目標ヲ射撃セサル可カラス

ト我操典モ三八式ニ基キ制定セラル、トキハ恐ラク亦其改正ヲ見  
乎

### 質 問

草案第三百五十九ノ第二項ニ依レハ砲兵ハ中隊ヲ各個ニ使用スルハ  
稀ニシテ小隊以下ニ分割スルハ特別ノ狀況ニ屬スルモノトセリ然ル  
ニ近時防楯ヲ附セラレテ持久力ヲ増加セルト射撃速度ノ増シタル爲

メ各砲ノ戰闘力倍加セルト又交通機關ノ發達殊ニ電話ノ利用等ニ依  
リ多少離隔スルモ各部ノ連絡ハ容易トナリタルヲ以テ寧ロ地形ヲ利  
用スル願慮上等ノ原因ヨリ此原則ハ若干變化セラレタルヤニ聞ク果  
シテ然ルヤ又小隊以下ニ分割シテ使用スル場合ヲ例示セラレタシ

### 答

材料ノ進歩ト通信法ノ發達トニ依リ火力集中ノ爲メニハ必スシモ同  
一地點ニ數中隊ヲ集團スルノ必要ヲ減シタルハ確實ナリ故ニ從來ニ  
比スレハ中隊以下ニ分割スルコトノ其不利ノ度ヲ減シタルハ亦爭フ  
ヘカラス然レトモ指揮ノ單位タル中隊ヲ更ニ分割シテ使用スルカ如  
キハ普通ノ狀況ニ在テハ決シテ得策トセサル所ナルヘシ  
獨逸野戰砲兵改正操典第三百六十六ニハ此事ニ關シ左ノ如ク示シア  
リ



砲兵ヲ使用スルニハ聯隊及大隊ノ連繫ヲ以テスルヲ通常トス然レ

トモ狀況ニ由リ若干中隊、小隊及砲車ノ現出ヲ適當トス

ト之ヲ以テ見レハ獨逸ニ於テモ亦狀況ニ依リテハ中隊以下ノ現出ヲ適當ト認メ是迄ノ如ク特別ノ場合トシテ其使用ノ機會ヲ制限セサルナリ本邦ノ草案ハ未タ三八式ノ新材料ニ關シテ規定セラレタルモノニアラサルヲ以テ或ハ恐ラク改正セラル。ナルヘシ  
小隊以下ニ分割シテ使用スルハ左ノ如キ場合ニ於テ屢々適當ナルコトアリ

一、山地戰

二、市街戰

三、右ノ外地形上二門以上ヲ同一地點ニ併列スル能ハサル場合

四、敵ノ機關銃破壊ノ爲メ一部ノ砲兵ヲ第一線ニ近ク前方ニ進ムル

場合

五、敵ノ砲兵、或ハ歩兵線ヲ側斜スル爲メ一部ノ砲兵ヲ第一線ニ近ク前方ニ進ムル場合

六、右ノ外故障ノ爲メ二門以上ヲ用ウル能ハサル場合或ハ二門以上ヲ用ヘントセハ時機ヲ失スル場合

質 問

前記第六ノ場合ニ就テ更ニ例ヲ舉ケ示サレタシ

二門以上ノ砲車アルニ拘ハラス尙二門以下ヲ用ウルヲ適當トスルカ如キ故障ノ狀況ハ果シテ如何ナル場合ナルヘキヤ

答

ウエルニツク著野戰砲兵戰術ニハ左ノ記載アリ適例ナルヘシ曰ク

問題ヲ出スニ當リ小隊、毎ニ使用スルコトアルヘキ場合ヲ考察センカ



爲メ中隊ニ付キ實際偶然ニ生起スヘキ一定ノ狀況ヲ想定スルヲ得例  
ヘハ左ノ如シ

想定

中隊ハ讓避ヲ許サ、ル長キ回道ヲ取リテ前進中ナリ然ルニ前方ニ  
在リタル第三砲車ハ運動ノ自由ヲ失ヒタルカ爲メ其後方ニ於ケル  
砲車ハ傍ヲ過キテ前進スルコト能ハス而シテ敵ハ前面ニ於ケル森  
林ノ縁端ヲ占領セリ又我步兵ハ該森林ニ對スル攻撃ノ爲メ前進ス  
此際砲兵ニ依レル應援ハ最モ必要ナリ但シ敵ノ砲兵ハ出現セス  
此他左ノ想定ハ亦適例トスルヲ得ヘシ

四門ヨリ成ル中隊ハ敵彈ヲ犯シテ前進中其一個小隊ハ敵彈ヲ蒙リ  
一時使用ニ耐ヘサルニ至レリ

質 問

第三百六十ノ中ニ曰ク殊ニ決戰若クハ特殊ノ目的ノ爲メニハ敵ノ猛  
烈ナル步兵火モ之ヲ避忌スルヲ許サス云々  
特殊ノ目的ノ爲メトハ例ヘハ如何ナル場合ナルヤ

答

歩兵ノ退却ヲ收容スル場合ノ如キ其一例ナルヘシ又敵ノ機關銃破壊  
ノ爲メ前進シタル場合ノ如キ亦然リ

質 問

砲兵ヲ數群ニ排置スルハ連續シテ長キ一線上ニ排列スルニ優ルト何  
故ナリヤ

答

獨逸操典ニハ此事ニ關シ次ノ如ク示シアリ  
砲兵ヲ數群ニ排置スルハ連續シテ長キ一線上ニ排列スルニ優ル是



レ敵ヲシテ陣地ノ認識及其試射ヲ困難ナラシメ從テ其兵器ノ効力ヲ減殺シ且ツ我砲兵ノ包圍火ニ便ナラシメ殊ニ同時ニ遮蔽陣地ニ在ルトキハ各群ノ觀測及射擊指揮ヲ容易ナラシメ又砲兵ノ各群同高ニ位置スルヲ要セサルカ故地形ノ利用一層容易ナレハナリ

質 問

獨逸ニハ曝露陣地ト略遮蔽ノ陣地ト遮蔽陣地トノ三種アリト聞ク其區別ヲ問フ又從來半遮蔽ノ陣地ト稱セルモノハ上記ノ何レニ屬スルヤ

答

曝露陣地トハ砲車ヲ敵ニ曝露スル陣地ナリ從來半遮蔽ノ陣地ト稱シタルハ多クハ砲口ノミヲ現ハシ砲車ノ大部ハ防界線ノ後方ニ遮蔽セシメタルナリシモ要スルニ砲車ノ一部ハ敵ニ曝露スルモノナルヲ以

テ是亦曝露陣地タルヲ免レス  
略遮蔽ノ陣地トハ砲車ノ全部ヲ敵眼ニ遮蔽セシメ唯其發射ニ際シ火光ヲ敵眼ニ觸レシムルモノヲ謂フ照準器ノミハ砲車ノ上方ニ現出シテ直接照準ヲ爲シ得ルモノトス從來ノ半遮蔽陣地ハ亦之ニ屬スルモノアリ  
遮蔽陣地トハ發射ニ際シ火光ヲモ敵眼ニ觸レシメサル如ク遮蔽シタルモノヲ謂フ火光ヲ敵眼ニ觸レシメサル爲メニハ敵ト砲車トノ間ニ高サ四米以上ノ遮蔽物アルヲ要スルモノトス  
通常右ノ如ク區別スト雖モ一定ノ定義ナシ

質 問

曝露陣地及略遮蔽陣地并ニ遮蔽陣地ノ利害ヲ問フ

答



獨逸操典ニハ此三種陣地ノ利害ニ關シ左ノ如ク記述シアリ  
 曝露及略遮蔽ノ陣地ニ在リテハ直接照準ヲ爲シ得ルヲ以テ通常迅速  
 ナル射撃開始及目標變換ヲ行フヲ得且動目標ノ射撃容易ナリ  
 遮蔽陣地ハ敵ニ目標ノ發見ヲ困難ナラシメ且兵力及指揮ノ目的ニ關  
 シ敵ヲ欺クノ手段トナル又彈藥ノ補充並ニ陣地變換容易ニシテ決戰  
 的任務ノ爲メ砲兵ヲシテ其戰鬪力ヲ保持スルヲ得セシム時トシテハ  
 不意ニ戰鬪ニ加入スルニ便ナラシム遮蔽陣地ヨリ射撃ハ注意周到ナ  
 ル準備ヲ要スルヲ以テ時間ヲ有シ且ツ確實ニ射撃指揮ヲ爲シ得ル觀  
 測所存在セル時ノミ好果ヲ奏シ得可シ  
 略遮蔽陣地ハ遮蔽陣地ノ性能ヲ減少セルモノナリ地形戰况之カ撰擇  
 ヲ許ストキハ略遮蔽陣地ハ曝露陣地ニ優ルヲ原則トス

### 質 問

第三百六十、砲兵ハカメテ敵ノ小銃有効地界外ニ於テ動作スルヲ要ス  
 云々  
 動作トハ運動及射撃ノコトナルヤ

### 答

然リ運動ト射撃トヲ指ス  
 然レトモ此所ニテハ寧ロ戰鬪動作即チ射撃カ主ナルヘシ

### 質 問

第三百六十一、砲兵ハ前方ニ進出セル我歩兵ニ依リ敵ノ歩兵火ニ對シ  
 掩護セラル、ヲ原則トス故ニ通常特別ナル掩護隊ヲ要セス云々  
 特別ナル掩護隊トハ砲兵自ラ出ス掩護隊ナルヤ又ハ他兵種ヨリ取ル  
 掩護隊ナリヤ又砲兵ハ掩護隊ヲ置カサルヲ主旨ト爲スモノナルヤ

### 答



前方ニ進出シタル歩兵ニ依リ掩護セラル、ニ依リ特ニ掩護隊トシテ歩兵騎兵或ハ工兵等ヲ砲兵ニ附スルノ必要ナキナリ若シ若干ノ掩護隊ヲ取ルトキハ此兵力丈ケ決戦ニ參與スル能ハサルコト、ナルヲ以テ成ルヘク全般ノ配置ニ依リ砲兵ハ第一線ノ歩兵ノ爲メ自然掩護セラル、如クスルヲ最モ適當トス操典ハ之ヲ要求スルナリ  
砲兵自ラ掩護隊ヲ出スハ爲シ能ハサル所トス故ニ此掩護隊ハ他兵種(歩騎工兵)之ニ任ス

### 質 問

如何ナル戦況ニ在テハ間接照準ヲ以テ射撃スルヲ有利トスルヤ(第三百六十二)

### 答

遮蔽陣地ノ利害ハ前既ニ述ヘタルカ如シ其利トスル所ヲ玩味セハ此

質問ハ恐ラク了解セラルヘシ

尙ホ次ニ其一二ノ例ヲ擧ケン

- 一、遭遇戦ニ於テ前衛ニ屬スル砲兵ハ其歩兵カ豫期セサル抵抗ヲ受ケタルトキ速ニ之ヲ破リ或ハ優勢ナル敵ニ對シ占領シタル支撐點ヲ頑強ニ固守セサルヘカラサル狀況ニ陥リタルトキ使用セラ  
ル、場合我目的ト兵力ノ配當ニ關シ敵ヲシテ不明ノ域ニ在ラシ  
メンカ爲メ大ナル間隔ヲ取り遮蔽陣地ヲ占ムルトキ
- 二、準備シタル陣地ノ敵ヲ攻撃スル場合準備シタル敵砲兵ノ損害ヲ  
避クル爲メ遮蔽陣地ヲ占メタルトキ
- 三、防禦ニ於テ優勢ナル敵砲兵ニ對シ我兵力ト位置トヲ秘匿シ以テ  
敵ノ陣地進入及其最初ノ展開ニ際シ之ヲ射撃スル爲メ且決戦マ  
テ其兵力ヲ貯存スル爲メ遮蔽陣地ヲ占ムルトキ



## 質問

平坦開濶ノ地ニ於テ友軍ニ危害ヲ及ホサ、ル如ク射撃センニハ其後  
方約何米以上ノ地ニ布陣スルヲ要スルヤ(第三百六十五)  
又危害ノ如何ヲ知ル單簡ナル算式アルカ如シ御教示ヲ乞フ

## 答

獨逸操典ニ曰ク

友軍歩兵砲口前三百米ニ運動スルトキハ平坦地ニ在リテモ危害ヲ  
及ホスコト無シ

觀測ノ景况良好ナラサルトキ最前線約三百米ニ近接スルトキハ敵  
歩兵ニ對スル射撃ハ停止シ火力ヲ敵散兵線ノ後方ニ在ル土地ニ轉  
シ以テ豫備隊ノ前進ノ困難ナラシム

彈道ノ形狀ハ若干差異アランモ其差少ク殆ント差異ナキモノト見做

シ得ヘキヲ以テ右ノ原則ハ我ニ於テモ亦之ヲ利用スルヲ得ヘシ  
軍隊ヲ超過シテ行フ射撃ニ關スル算式ハ即チ「フレステ」算式ナリ現  
時ノ砲トハ彈道ノ形狀又差異アルヘキモ元來概算ニ便ナル爲メノモ  
ノ故現時ニ於テモ亦之ヲ應用スルヲ得ヘシ

此算式ハ砲車ト彈着點ト連絡スル直線中某一點ノ上方ヲ通過スル彈  
丸ノ高サヲ示スニ其點ヨリ砲車マテノ距離 $X$ ト彈着點マテノ距離 $Y$   
トノ相乘積ノ三分ノ一トシ $X \cdot Y$ ハ米突ノ百位數ニテ算ス即チ

$$\frac{XY}{3} + h > 10^m$$

$h$ ハ友軍ノ高サ(彈着點ト砲車トヲ連結シタル線ヨリ軍隊ノ頭部ニ至  
ルマテヲ算ス)ニシテ線ノ上方ニ在ルトキハ減シ下方ニ在ルトキハ加  
フルモノトス平坦地ニ在テハ徒步者或ハ騎者ノ高サヲ減ス



但山砲ニ關スル算式ハ左ノ如シ

$$\frac{2X^2}{3} + h > 10^m$$

例ヘハ野砲ノトキ敵ト砲車トノ距離千五百米ニシテ平坦地トス而シテ友軍歩兵砲兵ノ前方約五百米ニ在ルトキハ危険ナルヤ否ヤヲ算定スルニ左ノ如シ

$$X=5. \quad y=10. \quad h=1.65$$

$$\frac{5 \times 10}{3} - 1.65 = 15.65$$

10<sup>m</sup>ヨリ大ナリ

即チ安全ナリ

腔發ノ如キハ教育適當ノ砲兵ニ在テハ殆ント其虞ナシ故ニ此危険ヲ顧慮スルニ及ハサルモノトス

### 質 問

砲兵指揮官ト砲兵司令官トノ名稱ノ差異ハ何ヲ以テ定メラレタルヤ  
 (第三百六十七乃至第三百七十)  
 二個以上ノ砲兵隊合シタルトキ其内ノ高級故參ノ砲兵隊長ヲ砲兵司令官ト呼ヒ得ルヤ

### 答

操典ニ於テ砲兵司令官ト稱スルハ獨立セル軍隊編組ノ最高級故參ノ砲兵指揮官ナリ  
 即チ今某軍ニ一ノ砲兵旅團アリ尙他ニ數個ノ砲兵聯隊アリトスレハ砲兵旅團長ハ即チ砲兵司令官ニシテ他ハ砲兵指揮官ナリ又某支隊ニ砲兵一大隊ヲ屬セラレタルトキハ其砲兵大隊長ハ即チ砲兵司令官ナリ若シ某師團ニ一ノ砲兵聯隊アリ尙之ニ他ノ一聯隊ヲ屬セラレタルトキハ此師團ニ於ケル砲兵司令官ハ兩聯隊中ノ最故參ノ聯隊長トス



質問

七十

第三百六十九ニ曰ク「相異なる兵團ニ屬スル砲兵團隊同一目的ヲ以テ同時ニ動作スルニ方リテハ砲兵戰ノ指揮ヲ統一セシムルヲ要スルコトアリ此場合ニ於ケル砲兵司令官ハ軍隊指揮官之ヲ命ス」ト斯ノ如キ場合ハ如何ナル狀況ニ於テ生スルヤ又此場合ニ在テモ高級故參ノ者ハ別命ナクトモ砲兵司令官タルヘキヲ以テ之ヲ命令スルノ必要ナキニアラスヤ

答

例ヘハ某軍ハ三師團ヨリ成ルトセハ各師團ニハ各一聯隊ノ砲兵アリ然ルニ軍司令官ハ之ヲ統一シテ指揮セシムル爲メ其軍ノ砲兵部長ヲ以テ砲兵司令官タラシムルヲ可トス斯ノ如キ場合ニハ砲兵司令官ハ軍隊指揮官之ヲ命スルモノニシテ斯ク命スルヲ必要ナリトス

體操教範ノ部

質問

總則第一ニ曰「體操ハ體力及氣力ヲ養成スルヲ以テ目的トスト此體力及氣力ノ養成ハ如何ナル程度マテヲ要求スルヤ

答

軍人ノ任務ヲ全フスルニ必要ナル程度ニ體力氣力ノ養成ヲ要求スルナリ

今左ニ軍隊體操ニ於テ養成スヘキ體力及氣力ノ内容ヲ示ス

- 一、軍人ノ技術(諸教練)ヲ習得スルニ適スル基礎ヲ作ルコト
- 二、身體ノ輕捷ト筋力ニ鞏強ヲ得セシムルコト
- 三、軍人トシテ遭遇實驗スヘキ總テノ劇動、勞働或ハ艱苦缺乏ニ耐ユ



ル體力ヲ得セシムルコト

四、健康ヲ保護増進スルコト

以上體力ニ關スル事項

五、耐忍持久ノ氣力ヲ得セシムルコト

六、活潑勇敢ノ氣象ヲ得セシムルコト

七、克己心ヲ得セシムルコト

以上氣力ニ關スル事項

質 問

體操ノ教育ニハ一班ノ人員ハ概ネ幾何ヲ適當トスルヤ

答

十名内外ヲ適當トス

質 問

第九ニ演習ノ初メニハ簡易ナル運動ヲ行ハシメ云々トアリ簡易ナル運動トハ如何

答

筋ニ不時ノ激動ヲ與ヘサル運動ヲ云フ

質 問

號令ノ代リニ笛聲若クハ記號ヲ用ウル場合ヲ問フ(第十一)

答

通常左ノ如シ

一、大部隊ニ於テノ徒手體操

二、競争障礙通過等遠距離ヨリ演習者ヲ指導スル場合(連續通過ノ時)

三、駈歩演習中

質 問



號令ノ代リニ用ウル笛聲及記號ノ方法如何

答

一定ノ方式ナシ其場合於テ適宜定ムヘキモノトス

質 問

徒手體操ハ何故初メ各個ニ教育スルヤ

答

各人ノ體力及體格ニ適應スル運動ヲ課シ且其運動ノ要領ヲ正確ニ習得セシメンカ爲メナリ

是レ體力及體格ハ各人各異ニシテ之ヲ完全ニ矯正シ且發達セシメンニハ各異ノ體格ニ適應スル如ク各別ニ教育スル必要ヲ生シ又運動ノ要領ヲ綿密ニ教授シ正確ニ之ヲ習得セシメンカ爲ニハ初メ個人ニ就キ號令ヲ用ヒス或ハ舉動ヲ遅クシ或ハ動作ヲ分チ殊ニ各人ノ能力ニ

應シテ適當ニ教授ノ方法ヲ撰定スルノ必要アレハナリ

質 問

教官模範ヲ示ストキハ兵卒ニ注目セシムルヲ必要トスルモ其方法ハ一定シアラサルカ如シ或ハ約束ニテ注目スルコトニ爲シアルモノアリ又注目ノ際ニハ休憩ノ姿勢ニ在ラシムルモノト不動ノ姿勢ニ在ラシムルモノトアリ爲メニ往々軍紀ヲ害スルノ虞ナキニアラス果シテ何レヲ適當トスルヤ

答

是等ノ事ハ毫モ一定スルノ必要ヲ認メス教官模範ヲ示ストキハ兵卒ハ之ニ注目スヘキコトヲ豫メ約束シ或ハ命令シ又ハ告諭スルモ可ナリ又其課業ノ初ニ於テ或ハ其動作ヲ行フ際ニ示スモ可ナリ要スルニ能ク注目セシムヘキナリ而シテ注目ノ際不動ノ姿勢ニ在ラシムヘキ



ヤ或ハ休憩ノ姿勢ニ在ラシムヘキヤモ亦一定スルヲ得ス隨時其時ノ  
場合ニ依リ何レヲ採ルモ可ナリ唯軍紀ヲ紊サ、ル如ク注意シ命令或  
ハ成ルヘク號令ヲ以テ之ヲ示スヘシ  
例ヘハ「休メ、注目」ト云フカ如シ

質問

徒手體操ノ内運動ノ種類ニ依リテハ深呼吸ヲ以テ行フヘキモノアリ  
斯ル運動ハ各個ニ行フヘキモノナルヤ教範第十四及第十七ノ規定ニ  
依レハ部隊ニテモ尙之ヲ行フヘキモノナルヤ若シ部隊ヲ以テ行フモ  
ノトスレハ其速度ニ其標準ノ規定ヲ要セサルヤ

答

教範ノ文意ニ依レハ各個部隊共ニ之ヲ行フヘキモノト解セサルヘカ  
ラス然レトモ深呼吸ヲ以テ行フ運動ノ目的ヲ探究スレハ此運動ハ決

シテ外形上ノ一致ヲ必要トセス即チ効益ノ大ナルコトヲ欲スレハ深  
呼吸ノ運動ハ各個ニ行フヲ利トスヘシ故ニ縱令部隊ヲ以テ實施シツ  
ツアル時ト雖深呼吸ヲ以テ行フトキハ各個ニ之ヲ行ハシムルヲ可トス

質問

教範第四十八ニ曰運動ハ一動毎ニ活潑ニ呼唱セシム然レトモ場合ニ  
依リテ之ヲ止メシムルモ妨ケナシト呼唱ヲ止メシムルハ如何ナル場  
合ナルヤ

答

呼唱ヲ止メシムヘキ場合ハ概ネ左ノ如シトス

- 一、教育ノ初メニ於テ呼唱セシムルコト困難ナルトキ即チ實行上ニ  
於テ節度ヲ分ツコト能ハサル場合

- 二、習熟後教育者必要ナシト認メタルトキ即チ習熟シタル後ニ於テ



動作正確ニシテ判然節度ヲ了得セリト認メタル場合

三、體操場ノ靜肅ヲ要スルトキ即チ體操場例ヘハ雨覆體操場、雪中練

兵場ノ如キ呼唱ノ爲メ喧噪ニシテ教育ニ不便ヲ來ス場合

四、互寒ノ場合又ハ暴風雨ノ爲メニ塵埃飛揚スルトキ即チ體育上ノ  
顧慮ヨリ互寒甚シキトキ又ハ暴風ノ爲メ塵埃飛揚シ口腔ヲ穢ス  
ノ虞アル場合

質 問

第五十四地上ニ下リタル後更ニ一躍ヲ爲ス理由及其實施ノ要領ヲ問フ

答

身體ノ重心ヲ保チ衝力ヲ減殺シ足尖ニ於ケル彈力性ヲ養成シ且ツ身  
體ノ輕捷ヲ養フニ在リ

故ニ地上ニ下リタル反撞ヲ利用シ更ニ力ヲ加ヘ稍々高ク遠ク跳躍ス

ルヲ可トス

質 問

懸垂ノ爲メ鐵棒(横木)棚ノ下ニ立ツトキ其位置ハ直下ナルヤ

答

鐵棒等ノ直下ヨリ少シク(一足長位)後方ニ立ツヲ良シトス

質 問

第七十、梁木ノ速歩通過ニハ速步行進ノ要領ニ從ヒ足ヲ輕ク踏ミ着ク  
ル如ク規定シアリ此際脚ヲ伸ハスヘキモノナルヤ或ハ斯ク迄ハ要求  
シアラサルモノナルヤ又梁木通過ノ際ノ着眼點ヲ問フ

答

教範ハ脚ヲ伸ハシテ通過スル如ク要求スルモノト見解スルヲ可トセ  
ン



是レ脚ヲ伸ハシテ行進スルハ速步行進ノ要求スル所ニシテ梁木上ニ於ケル此運動ハ之ヲ伸ハサ、ルモノニ比スレハ其實施甚タ困難ナリ而シテ精神ノ訓練上ヨリ謂フトキハ其困難ナルモノヲ實施スルヲ適當トスレハナリ故ニ教育ノ手段トシテハ最初ハ脚ヲ伸ハサスシテ通過スル者モ後ニハ脚ヲ伸ハシテ通過セシムルヲ可トス又梁木通過ノ際ニハ其未熟ノ間ハ何レニ着眼スルモ妨ナシト雖熟練ノ者ハ絶ヘス他端ニ着眼スヘキモノトス

質 問

應用體操ニ於テハ呼唱ヲ附スルヤ否ヤ

答

通常舉動毎ニ呼唱ヲ附セサルモノトス然レトモ教育ノ手段トシテハ場合ニ依リ之ヲ附スルモ可ナリ

質 問

野外ニ於ケル應用體操ハ單ニ教範ニ示スモノヲ實施スルヲ以テ足レリトスルヤ或ハ尙此外ニ教育スヘキモノナルヤ若シ廣ク教育スルトスルモ應用ノ範圍ハ極メテ廣大ナルヲ以テ狀況地形等ニ依リ千差萬別到底一定スルヲ得サルヘシ然レトモ若シ大概ノ標準トスルモノアラハ之ヲ示サレタシ

答

教範ニ示ス所ノモノハ普通一般ニ用ヒラルヘキモノニ就キ其一例ヲ舉ケタルモノナルヲ以テ教範ノ圖例ノミニテ十分ナラサルハ勿論トス然レトモ野外ニ於テ遭遇スヘキ障礙ハ其種類甚タ多カルヘク悉ク之ヲ探究シ教育スルハ又爲シ能ハサルノミナラス其必要ナシ故ニ必要ノ度ヲ酌量シ其種類ヲ限定シテ教育スルヲ以テ適當トス



即チ其種類ハ概ネ左ノ如クナルヘシ

但此種類ハ必要上ヨリ甲、乙ノ二種ニ區分ス

甲、熟練セシムヘキモノ

一、水流、壕ノ幅員狹キトキ材料ヲ用ヒス幅跳ノ要領ニ依リ通過スル法

二、各個及部隊ヲ以テスル斜面ノ登降

三、各個及部隊ヲ以テ材料ヲ用ヒス斷崖ノ攀登、跳下(應用體操場ニ於テハ板被覆部)

四、教範第六十二圖其一

五、教範第六十二圖其二及其三

六、環列人梯

七、教範第六十一圖其一

八、教範第六十二圖其四

乙、要領ノミヲ示スモノ

一、銃ノ搬送法

二、教範第六十一圖其二及其三

三、二條ノ繩ヲ以テ水流、壕ヲ通過スル法

四、教範第六十一圖其四

五、教範第六十二圖其五

六、二本ノ竹、二條ノ繩ヲ以テ水流、壕ヲ通過スル法

七、一本ノ竹、一條ノ繩ヲ以テ教範第六十一圖其一、其三ノ要領ニ依リ

水流、壕ヲ通過スル法

八、環繩ヲ利用シテ樹木ヲ攀登降下スル法

九、一列人梯ヲ以テ斜面ヲ登降スル法



- 十、竹、木ヲ立テ掛ケテ斜面ヲ登降スル法
- 十一、垂下セル樹枝、葛、藤等ヲ利用シテ斜面ヲ登降スル法
- 十二、足場ヲ造リツ、斜面ヲ登降スル法
- 十三、木片等ヲ以テ手ノ支點ヲ造リツ、斜面ヲ登降スル法

### 劍術教範ノ部

#### 質問

教範第八ニ曰劍術ノ演習ニハ竹刀或ハ木銃ヲ用キ且防具ヲ着用スヘキモノトスト之ヲ以テ見レハ劍術ノ演習ニハ常ニ總テノ防具ヲ着スルヲ本旨トスルカ如シ然ルニ銃劍術ノ基本動作ヲ示ス所ノ附圖ニ於テ面ヲ着セサルモノヲ示シアルハ如何ナル理由ナルヤ若シ此附圖ノ如ク銃劍術ノ基本演習ニ於テハ面ヲ用ヒサルヲ制規トナストスレハ軍刀術ノ基本動作ヲ示ス所ノ附圖ハ何レモ面ヲ着シアルヲ以テ常ニ必ラス之ヲ着用セサルヘカラサルヤ

#### 答

教範第八ニ依レハ劍術演習ニハ防具ヲ着用スルヲ本旨トスルモノ、



如シ然レトモ常ニ必ス悉ク之ヲ着スヘシト解スルニ及ハサルヘシ實際ニ於テ初步ノ者ニ對スルトキノ如キ速ニ要領ヲ會得セシムル爲メ着用セサルヲ有利トスルコトアルヲ以テ教育手段トシテハ教育ノ初期ニ於テハ防具全部ヲ着用セサルモ妨ナシトス然レトモ既ニ習熟シタル者ハ教範ノ本旨ニ依レハ悉ク之ヲ着用スヘキモノナルヘシ又銃劍術ノ基本動作ニ於テハ第五十六ニ示ス如ク刺突部タル胴ト喉ノ内喉ハ通常刺突セサルモノナルコトヲ示シアリ而シテ教育上面ヲ用ヒサルヲ可トスルカ故ニ附圖ニハ之ヲ例示シ以テ教範ノ本旨ハ銃劍術基本動作ニ於テハ面ヲ着用セサルヲ暗ニ示シタルモノナルヘシ

### 質 問

自信力ヲ増進セシムル爲メ異種白兵ニ對シ劍術ノ演習ヲ行フヘキコトハ第十二ニ規定スル所ナリ銃劍ニ對スル軍刀術又軍刀ニ對スル銃劍術ニ於テ其構備ノ姿勢ハ同種ノ白兵ニ對スル場合ノ要領ト多少異ル所アラサルヤ如何

### 答

異種白兵ニ對スル劍術ニ於テ適當ナル構備ノ姿勢ハ左ノ如シトス  
銃劍ニ對スル軍刀術  
構備ノ姿勢ニ於ケル左肩ヲ少シク後方ニ引キ右臂ヲ殆ント伸ハシ拳ノ高サヲ臑骨ヨリ稍低クス  
軍刀ニ對スル銃劍術  
構備ノ姿勢ニ於テ兩手ヲ以テ銃ヲ少シク後方ニ引キ(左手ヲ稍前方ニ出シテ握ルヲ可トス)劍尖ヲ下ケテ敵手ノ右拳(臑骨)ニ向ハシム

### 質 問

異種白兵ニ對スル劍術ニ於テ有利ナル擊突及防拂ノ方法アラハ示サ



答

通常次ノ方法ヲ適當トス

銃劍ニ對スル軍刀術ニ在テハ左ノ如シ

一、敵ノ劍尖ヲ左(右)ヨリ押シツ、進ミテ面(面或ハ左胸)ヲ斬撃ス

二、前進退却其他意志動作等ヨリ生スル敵ノ虚隙ニ乘シ面或ハ左胸

ヲ斬撃シ或ハ刺突ス

三、敵ノ劍尖上リタルトキ下ヨリ敵劍ヲ押シツ、進ミテ左胸或ハ面

ヲ斬撃ス

四、敵カ右(左)ニ伴突ヲ行フトキニ左(右)ヨリ敵劍ヲ押シツ、進ミテ面

(面或ハ左胸)ヲ斬撃ス

五、敵ノ刺突ヲ防拂シ面或ハ左胸ヲ返撃ス

六、敵ニ接近シタルトキ左手ニテ敵銃ヲ握リ面或ハ左胸ヲ斬撃刺突

ス但撃突ハ其瞬間ニ於ケル一回ヲ限リトス

七、凡テ防拂ハ進ミツ、行フヲ良トス

軍刀ニ對スル銃劍術ニ在テハ左ノ如シ

一、右(左)ニ見セ左(右)ヨリ刺突ス

二、右(左)ヨリ打テ刺突ス

三、進ミナカラ右(左)ヨリ打チ刺突ス

四、下(上)ニ見セ拳ノ上(下)ヨリ刺突ス

五、前進退却其他意志ノ發作等ヨリ發スル敵ノ虚隙ニ乘シ刺突ス

六、敵接近スルトキ退キツ、刺突ス

七、敵ヨリ銃劍ヲ押ヘラル、トキ脱シテ刺突ス

八、敵ノ撃突ニ際シテ己レヲ捨テ、刺突スルカ若クハ速ニ敵ノ撃突



距離外ニ脱出スルヲ要ス

九、凡テ刺突法ハ銃劍術ノ刺突法ニ據ルヲ可トスト雖場合ニ依リ操突ヲ行フモ妨ケナシ

質 問

第三十三竹刀(木銃)ヲ放墜セシモノハ敗者トシ之ニ對スル敵手ハ擊突ヲ行ハサルモノトス云々ハ竹刀或ハ木銃ヲ放墜セシ者ノ爲メニ示シタルモノナルヤ或ハ其對手ノ心得ヲ示シタルモノナルヤ竹刀或ハ木銃ヲ放墜スルモ尙赤手敵ニ肉薄シ組打ヲ以テ敵ヲ殪スノ氣勢アラハ決シテ敗者ト決スヘキニアラス又確實ニ敵ヲ斬撃シタル後放墜スルトキナキニアラス此場合ニハ放墜シタリトテ決シテ敗者タラサルヘシ如何

答

第三十三ハ竹刀(木銃)ヲ放墜シタルモノ及其對手ニ關スル心得ヲ共ニ規定シタルモノナリ故ニ教育上某目的ヲ以テ行フトキハ格別ナルモ通常勝敗ヲ定ムヘキ試合ニ在リテ竹刀(木銃)ヲ放墜シタル者ハ已ニ劍術ニ於テハ格闘力ナキモノナルヲ之ヲ敗者ト認ムヘキモノトス但實際ニ於テハ縱令軍刀或ハ銃劍ヲ放墜シ此格闘力ハ已ニ失ヘタル場合ト雖モ赤手敵ニ組打チ之ヲ殪スノ氣勢ヲ必要トスルハ勿論トス故ニ演習ニ於テモ若シ竹刀(木銃)ヲ放墜シタルトキハ毫モ放墜シタル竹刀(木銃)ニ顧慮スルコトナク直ニ踏込ミ對手ニ肉薄シテ之ト組打ヲ爲スヘキ氣勢ト共ニ其準備ヲ爲スハ實戰ニ於テ不覺ヲ取ラサル爲メノ注意トシテ必要ノコトナリ然レトモ唯其準備ニ止メ真ノ組打ハ劍術ニ於テハ之ヲ行ハシメサルモノトス是レ組打ハ既ニ劍術ノ範圍ニアラサレハナリ



又確實ニ斬撃シタル後竹刀(木銃)ヲ放墜シタルモノニ對シテハ勿論之ヲ敗者ト認メサルモノトス

質問

第四十九ニ防拂ハ構備ノ姿勢ヨリ刀及ヲ以テ敵刀ヲ敏活ニ撃拂ストアリ軍刀ノ何レノ部分ヲ以テ防拂スルヲ適當トスルヤ

答

苟モ我ヲ斬撃シ來ル敵ハ全力ヲ以テ刀ノ衝力ノ中心部ニ依リ斬撃ヲ企ツルナルヘシ然ルニ我亦刀ノ衝力ノ中心部ヲ以テ之ヲ防拂セントスルモ斬撃ト防拂トハ勢力ヲ附スルノ範圍上ヨリ其力ハ防拂ニ於テ弱キヲ免レス故ニ防拂ニハ特ニ敵ノ軍刀ヲ支フル力ヲ加ヘサルヘカラス之カ爲ニハ若干鰐元ニ近ク防拂スルヲ可トスヘシ斯クノ如ク敵刀ヲ防拂スルニハ拂フカト支フルカトヲ要シ且此動作ハ其時機ニ應

シ敏活ニ施行セラレサルヘカラス而シテ拂フ力ハ衝力ノ中心部ヲ可トシ支フル力ハ鰐元ニ近キヲ要求シ敏活ノ爲ニハ其時ノ狀況ニ應スル自然ノ位置ヲ適當トス故ニ到底之ヲ一定スルヲ得サルナリ要ハ確實敏活ニ防拂スルヲ以テ主眼トスヘキモノトス

質問

第五十二曰返撃ハ面ノ斬撃ノ要領ニ準スト又第六十八ニ曰返突ハ直突ノ要領ニ準スト之ヲ以テ見レハ返撃(突)ハ常ニ一步前方ニ進出シテ行フヲ本旨トスルカ如シ然ルニ實際ニ於テハ此動作ハ停止シテ行フヲ可トスル場合多シ故ニ返撃(突)ハ單ニ前進シテ行フノミナラス停止シテモ行ヘ得ル如ク爲スヲ適當トセスヤ

答

實際ニ於テ停止シテ返撃(突)ヲ行フヲ可トスル場合果シテ多キヤ否ヤ



ハ論外トシ單ニ動作上ヨリ言フトキハ停止ノ返撃(突)ハ專テ手ノ動作ニシテ前進シテノ返撃(突)ハ手ト脚ノ動作ナリ故ニ前進シテ行フ動作ヲ練習スルトキハ停止ノ動作ハ并セテ練習シ得ラルヘシ故ニ事實上教育ニ於テハ停止ノ返撃(突)ヲ行フハ少キ筈ナリ而シテ教範ニ於テ斬撃(直突)ノ要領ニ準ストハ全然其動作同シト云フニ非サルニ勿論ナリ大部分ニ於テ同シトノ意ナルヘシ即チ之ヲ必ス一步前進シテ行フト解スルニ及ハサルヘシ宜シク此返撃(突)ハ停止若クハ前進シテ行フトトス

質問

軍刀術或ハ銃劍術ノ基本動作ニ於テ防拂及返撃(突)ヲ爲サシムルトキ停止ノ儘行フヘキヤ前進シテ行フヘキヤ如何ハ教官ニ於テ豫告スルヲ要スヘシ此場合ニハ如何ナル告諭ヲ用ウヘキヤ

答

左ノ如ク豫告スヘキモ停止ノ場合ハ通常之ヲ省略シテ何等ノ告諭ヲモ用ヒサルヲ可トセシ

停止ノ場合 其場テ(略ス)

前進ノ場合 進テ

質問

第六十六ニ曰防拂ハ構備ノ姿勢ヨリ銃劍ヲ以テ敵ノ銃劍ヲ敏活ニ撃拂スト銃劍術ノ基本ノ防拂ニ於テハ木銃ノ何レノ部分ヲ以テ防拂スルヲ適當トスルヤ又對手ノ木銃ノ何レノ部位ヲ撃拂スルヲ可トスルヤ

答

防拂ノ方法ハ一ニ拳ノ働キヲ基準トスルヲ以テ其結果タル防拂ノ部



分ヲ決定スルハ爲シ能ハサル所ニシテ亦其必要ナシトス然レトモ教  
育ノ手段トシテハ概略ノ部位ヲ決定シ置クヲ適當トセン即チ其部位  
ハ左ノ如クナルヘシ

右ノ防拂ニ於テハ劍刃ニ近キ平面部

左ノ防拂ニ於テハ劍背ニ近キ平面部

下ノ防拂ニ於テハ劍刃部

以上何レモ劍身ヲ以テ行フモノトス

又銃劍術ノ基本ノ防拂ニ於テ擊拂スルニハ敵銃ノ下帶附近ヲ可トス

典範令研究ノ彙 第三集終

明治四十一年五月二十日印刷  
明治四十一年五月廿六日發行

著作兼  
發行者

東京市牛込區若松町百五十番地  
上田 賴三

印刷者

東京市赤坂區田町五丁目十一番地  
齋藤 豁

印刷所

東京市赤坂區田町五丁目十一番地  
齋藤活版所

東京市牛込區若松町百五十番地

發行所

軍需商會

電話番町一四七一番  
發電略號(グン)  
振替貯金口座五四一六番



318  
201

### ●振替貯金に就て

振替貯金爲替は爲替料を要せず紛失の憂なく殊に其用紙裏面に通信文を記載するの便利あり本會の振替貯金口座番號は(第五四一六番)に有之候該用紙は各地何れの郵便局にも備附ある筈なり可成此便法を御利用相願度候敬具

軍需商會長

上田 頼三

東京市牛込區若松町百五十番地  
電話番町一四七  
振替貯金口座番號五四一六番



